

# 観客とともに沸いた夏の熱い闘い 第26回全国高等学校女子硬式野球選手権大会



8月2日、第26回全国高等学校女子硬式野球選手権大会の決勝戦が阪神甲子園球場で行われ、横浜隼人高校（神奈川県）が延長10回タイブレークの3時間超の熱戦の末、開志学園高校（新潟県）を4対3で破り、初優勝を飾りました。

史上最多の49チームが出場した今大会は、“女子高校野球の聖地”丹波市で7月22日に開幕し、7月30日の準決勝まで熱戦を繰り広げました。決勝に進んだ2校が、昨年に引き続き、“高校野球の聖地”で決勝戦に臨みました。

昨夏の決勝戦は新型コロナウイルス感染症対策のため、入場者を保護者や在校生など学校関係者に限定していましたが、今大会は一般客の入場を認め、3,021人の観客が来場。延長戦にもつれ込む好ゲームに大きな盛り上がりを見せました。



女子甲子園の決勝はどちらが勝つかわからないとても良い試合でした。タイブレークに突入する接戦の中、両チームが最後まで必死に戦う、諦めない姿を見て感動しました。



丹波ベリーエース  
（女子野球チーム）  
中学部一年生  
田中芽咲さん

## 「最後まで諦めない姿に感動」

延長戦になっても最後まで諦めたくないという気持ちが伝わり、「これが一生懸命頑張るといことなんだ」と思いました。私たちのチームも同じように、これからもがんばりたいです。



丹波ベリーエース  
（女子野球チーム）  
主将 小学六年生  
堀 瑠花さん

## 「笑顔で楽しそうな姿にワクワク」

みんなが笑顔で楽しそうにプレイする姿を見て、ワクワクしました。元気で大きな声が出ていて、私たちももっとこうしたらいいんだと思うことがたくさんありました。

甲子園での  
決勝戦を観戦して





準決勝に勝利し、決勝戦の甲子園への進出が決まり、喜びを爆発させる横浜隼人高校（左）、開志学園高校



大会日程が掲示された阪神甲子園球場

横浜隼人高校の攻撃からプレイボール

快音を響かせた一打



一点を争う好ゲームに興奮する両チーム



選手のプレーにスタンドから力強い声援を送る応援団ら



全日本女子野球連盟の山田代表理事（中央）から女子  
野球タウンの認定書を受け取る林市長

7月21日、全日本女子野球連盟から丹波市が「女子野球タウン」に認定され、調印式が行われました。また、全国高等学校女子硬式野球選手権大会の会場であるつかさグループいちじま球場が、全日本野球協会が選定する「日本野球聖地・名所150選」に選定されました。

丹波市が女子高校野球の聖地として「女子野球タウン」に認定